

CG 基礎、数学的準備

情報可視化論 第 03 回

陰山 聡

神戸大学 システム情報学研究科 計算科学専攻
[情報基盤センター分館 第 1 演習室]

2015.04.28

環境設定

- ログイン確認
- WebGL 環境オン
 - Safari 立ち上げ
 - 環境設定
 - → メニューバーに開発メニューを表示 にチェック
 - (開発メニューから “WebGL を有効”)
- 確認
 - この講義のウェブページ
 - <http://tinyurl.com/kageyama2015a>
 - サンプルをクリック

前回の復習

WebGL とは

WebGL = シェーダを使い、HTML5 の canvas に、JavaScript で 3D CG を書くための API

WebGL の特徴

- スタンドアロンアプリからウェブアプリへの流れ
- クロスプラットフォーム
- オープンスタンダード
- Web で GPU を使ったレンダリングが可能
- 開発・利用が容易：プラグイン不要
- ソースコードが見える
- グラフィックス（OpenGL）と UI（ウィンドウ管理やイベント処理）の分離が明白

コンピュータグラフィックス (CG)

CG と並列計算

並列計算については学んできたはず。

空間を分割して、通信用のメモリを確保して、MPI で通信して …

並列プログラム作りは結構大変。← 結局同期が大変だから。

一方、同期について気にしなくてもよい問題もたくさんある。もともとのアルゴリズムが並列化可能なもの。→ “Embarrassingly” parallel problems

CG の処理の多くが embarrassingly parallel

座標変換、テクスチャマップ、シェーディング、ラスタ化、etc.

CG 専用並列計算機 → GPU (Graphics Processing Unit)

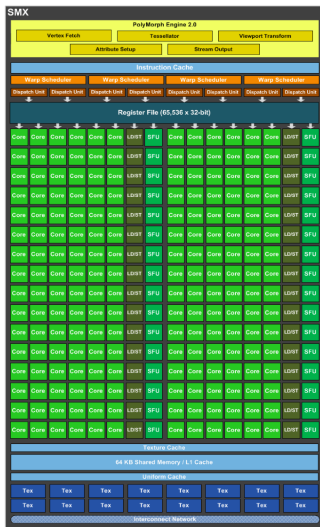
Kepler GeForce の構造

Nvidia white paper より引用



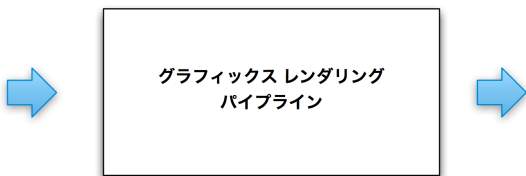
Kepler GeForce の構造

Nvidia white paper より引用



グラフィックス レンダリング パイプライン

Graphics rendering pipeline 「パイプライン」

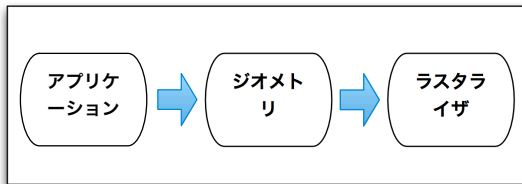


input: カメラ設定、3次元オブジェクト、光源、ライティングモデル、テクスチャ

output: 2次元画像

パイプラインの構造

アプリケーション ステージ → ジオメトリ ステージ → ラスタライザ ステージ



アプリケーション ステージ

ソフトウェア

オブジェクトの生成、アニメーション、衝突検出、カリング、等々

ジオメトリ ステージ

ハードウェア



ビューボリューム

canonical view volume (標準ビューボリューム)

辺の長さ 2 の立方体

$$(-1, -1, -1) \leq (x, y, z) \leq (1, 1, 1)$$

標準ビューボリューム内の座標を**正規化デバイス座標** (Normalized Device Coordinates, NDC) と呼ぶ。

ジオメトリステージの役割は、アプリケーションが設定した CG 世界をビューボリュームにマップすること。

射影

2 種類：

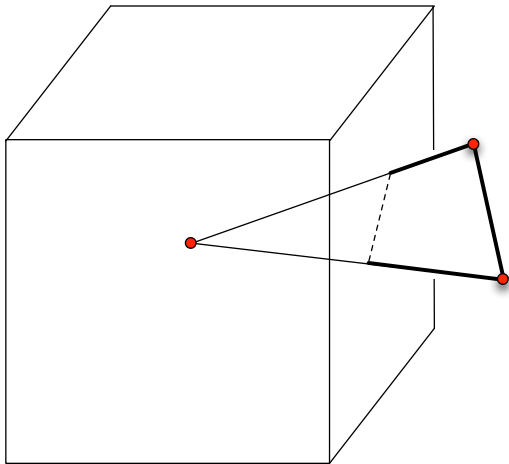
- ・ 正射影 orthographic projection, 平行投影 (parallel projection)
- ・ 透視射影 perspective projection, 遠近投影

視錐台 view frustum

どちらの射影も 4 行 4 列の行列演算で書ける (後述)。

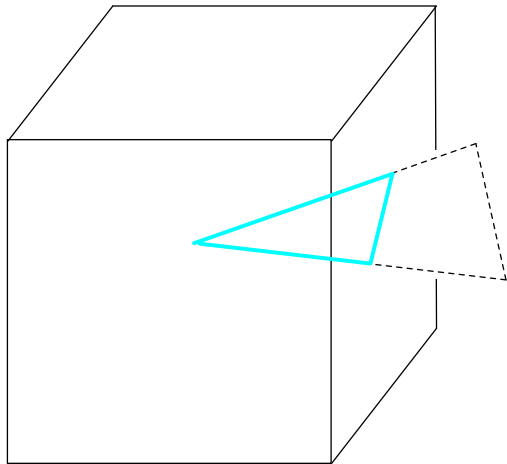
クリップ処理

ビューボリュームの外部は描かない。



クリップ処理

ビューボリュームの表面に新しい辺が自動的にできる。

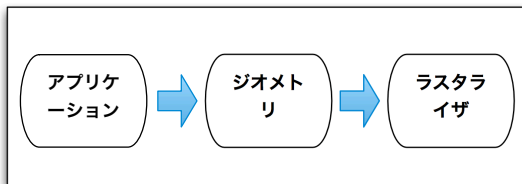


スクリーンマッピング

最終的な画像の大きさ (width と height) に合わせて、立方体のビューボリュームを x 方向と y 方向にスケール変換+平行移動させる。 z 方向には何もしない ($-1 \leq z \leq 1$)

パイプラインの構造

再掲

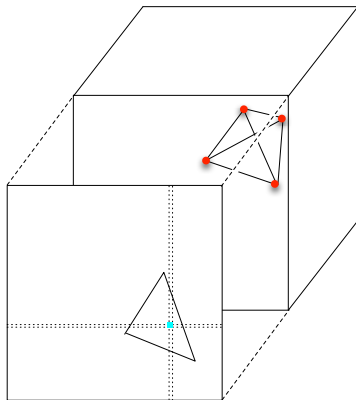


ラスタライザステージ

ビューボリューム内のデータ (3D) + テクスチャデータ (2D) → 画像 (2D)

頂点のデータ → ピクセルの色

簡単のため、スクリーンマッピングを省略すると



ラストライザステージ

デプステスト。後述。

アルファテスト

ステンシルテスト

テクスチャマッピング

グラフィックスハードウェア

グラフィックスハードウェアの概念図

→ **【図】**

フレームバッファ

カラーバッファ

Zバッファ

ステンシルバッファ

カラーバッファ

ピクセル RGBA

16 bits, 23 bits, 32 bits

RGBA32 = R8 + G8 + B8 + A8

Zバッファ

Z-buffer

デプステスト

Edwin Catmull が考案。→ 写真

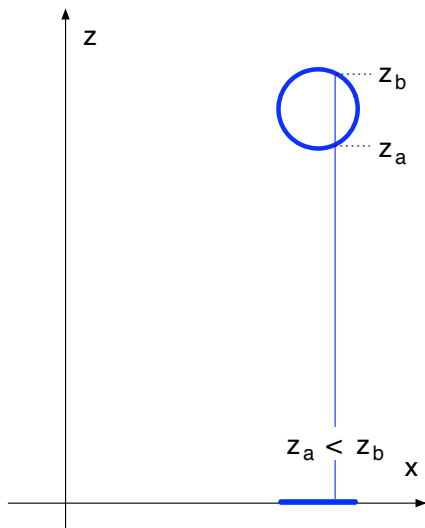
博士論文 (1974 年)。

RenderMan 開発 (アカデミー賞)

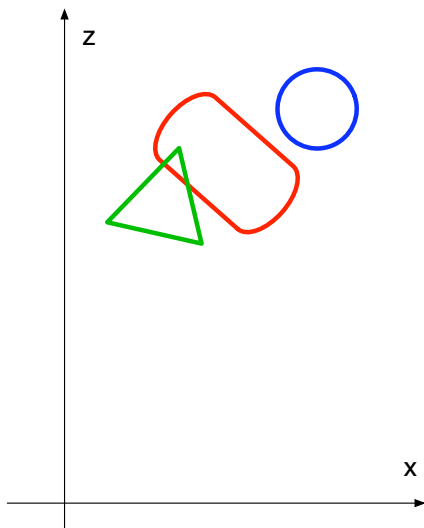
ルーカスフィルム → ピクサー設立。

ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ社長

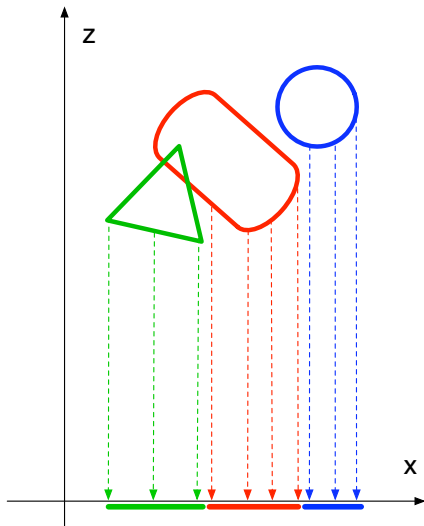
Z-buffer



Z-buffer



Z-buffer

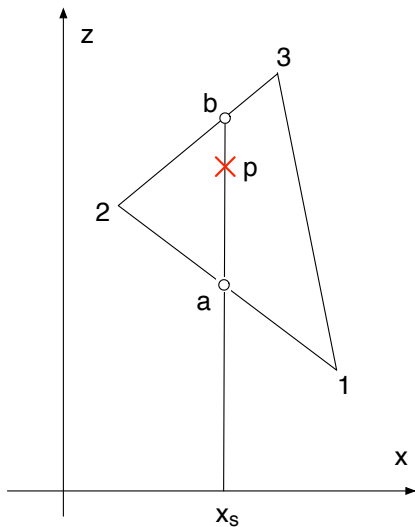


Z-buffer

$$z_a = z_1 + (z_2 - z_1) \frac{x_s - x_1}{x_2 - x_1}$$

$$z_b = z_2 + (z_3 - z_2) \frac{x_s - x_2}{x_3 - x_2}$$

$$z_p = z_a + (z_b - z_a) \frac{y_p - y_b}{y_b - y_a}$$

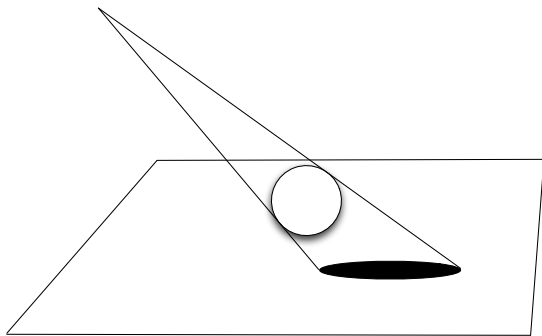


デプスマップアルゴリズム

シャドウマップアルゴリズムともいう (Williams1978)

光源に視点をおいてレンダリング

光源からオブジェクトの各点までの距離 → zバッファ → 2次元データ
→ テクスチャ → テクスチャマッピング



ステンシルバッファ

カラーバッファの値を実際に描画するかどうかをピクセル単位で制御
「型紙」

数学的準備

同次座標

同次座標 (homogeneous coordinates) とは 3次元空間中の位置座標 \boldsymbol{x} と、任意のベクトル \boldsymbol{v} をあえて 4成分で表現したもの。

3次元空間中の位置座標 \boldsymbol{x} を

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ 1 \end{pmatrix} \quad (1)$$

ベクトル \boldsymbol{v} は

$$\begin{pmatrix} v_x \\ v_y \\ v_z \\ 0 \end{pmatrix} \quad (2)$$

アフィン変換

3次元空間の位置座標 \boldsymbol{x} や、ベクトル \boldsymbol{v} の変換を考える。

$$\boldsymbol{x} \longrightarrow \boldsymbol{y} \equiv F(\boldsymbol{x}). \quad (3)$$

線形変換 = スケール変換 + 回転 + 剪断。

アフィン変換 = 線形変換 + 平行移動。

平行移動は 3 行 3 列の行列では書けない。

同次座標と 4 行 4 列の行列を使えば書ける。

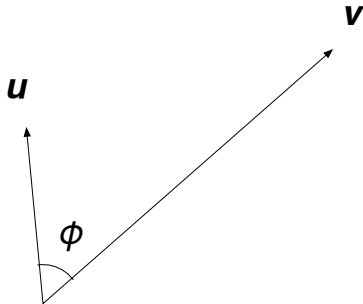
線形代数の復習：内積

 n 次元空間中のベクトルと正方行列ベクトル \mathbf{u} の大きさ

$$u = |\mathbf{u}|$$

内積

$$\mathbf{u} \cdot \mathbf{v} = u_i v_j = u v \cos \phi$$



線形代数の復習：正規直交系

$$\mathbf{e}_i \cdot \mathbf{e}_j = \delta_{ij} \quad (\text{クロネッカーのデルタ})$$

一般のベクトル \mathbf{v} と正規直交系 $\{\mathbf{e}_0, \mathbf{e}_1, \dots, \mathbf{e}_{n-1}\}$

\mathbf{v} の i 成分

$$v_i = \mathbf{v} \cdot \mathbf{e}_i$$

線形代数の復習：外積

3次元空間のベクトル

$$\mathbf{w} = \mathbf{u} \times \mathbf{v} \quad w_i = \epsilon_{ijk} u_j v_k \quad (\text{エディントンのイプシロン})$$

 \mathbf{w} は \mathbf{u} と \mathbf{v} の両方に垂直

$$w = uv \sin \phi$$

$$\mathbf{u} \times \mathbf{v} = -\mathbf{v} \times \mathbf{u}$$

$$\mathbf{u} \cdot (\mathbf{v} \times \mathbf{w}) = (\mathbf{u} \cdot \mathbf{w}) \mathbf{v} - (\mathbf{u} \cdot \mathbf{v}) \mathbf{w}$$

線形代数の復習：行列のかけ算

M と N は行列

行列 M の成分を M_{ij} ($i, j = 0, 1, \dots, n-1$)

行列 N の成分を N_{ij} ($i, j = 0, 1, \dots, n-1$)

とすると

$$L = MN$$

の成分は

$$L_{ij} = \sum_{k=0}^{n-1} M_{ik}N_{kj} = M_{ik}N_{kj}$$

線形代数の復習：行列のかけ算

$$(LM)N = L(MN)$$

$$(L + M)N = LN + MN$$

$$MI = IM = M \quad (I: \text{単位行列})$$

一般には非可換：

$$MN \neq NM$$

線形代数の復習：逆行列

正方行列 M に対して

$$MN = NM = I$$

という行列 N を逆行列という。

逆行列を

$$M^{-1}$$

と書く。

一般には逆行列を求めるのは大変（計算量が多い）

glMatrix.js（後述）では4行4列の逆行列を求める関数が組み込まれている。

線形代数の復習：行列式

正方行列に対して

$$\det(\mathbf{M})$$

$$\det(\mathbf{I}) = 1$$

$$\det(\mathbf{MN}) = \det(\mathbf{M}) \det(\mathbf{N})$$

$$\det(\mathbf{M}^t) = \det(\mathbf{M})$$

線形代数の復習：行列の転置

行列 M の成分を M_{ij} ($i, j = 0, 1, \dots, n - 1$)

転置行列を M^t と書く

a を数、 M と N を行列として

$$(aM)^t = aM^t$$

$$(M + N)^t = M^t + N^t$$

$$(M^t)^t = M$$

$$(MN)^t = N^t M^t$$

線形代数の復習：行列のトレース

$$tr(M) = \sum_{i=0}^{n-1} M_{ii}$$

線形代数の復習：直交行列

$$MM^t = M^tM = I$$

を満たす正方行列 M を直交行列という。

$$M^t = M^{-1}$$

$$\det(M) = \pm 1$$

M^t も直交行列。

直交行列はベクトルの長さを変えない：

$$|Mu| = |u|$$

直交する二つのベクトルを直交行列で変換しても直交したまま。

$$u \cdot v = 0 \iff (Mu) \cdot (Mv) = 0$$

3次元空間中の平面

点 \mathbf{p} を通り、ベクトル \mathbf{u} とベクトル \mathbf{v} で張られる平面の式：

$$\mathbf{x} = \mathbf{p} + s\mathbf{u} + t\mathbf{v}$$

単位ベクトル $\mathbf{n} \equiv \mathbf{u} \times \mathbf{v} / |\mathbf{u} \times \mathbf{v}|$ を使えば、

$$\mathbf{n} \cdot \mathbf{x} + d = 0$$

\mathbf{n} を法線ベクトルという。 $f(\mathbf{x}) = \mathbf{n} \cdot \mathbf{x} + d$ とすると

$f(\mathbf{x}_0) = 0 \iff$ 点 \mathbf{x}_0 はこの平面の上

$f(\mathbf{x}_0) > 0 \iff$ 点 \mathbf{x}_0 は $\mathbf{p} + \mathbf{n}$ 側にある

$f(\mathbf{x}_0) < 0 \iff$ 点 \mathbf{x}_0 は $\mathbf{p} - \mathbf{n}$ 側にある

面積

3点 \mathbf{p} , \mathbf{q} , \mathbf{r} を頂点とする 3 角形の面積

$$S = \frac{1}{2} |(\mathbf{p} - \mathbf{r}) \times (\mathbf{q} - \mathbf{r})|$$

x - y 平面上におかれた n 角形の面積

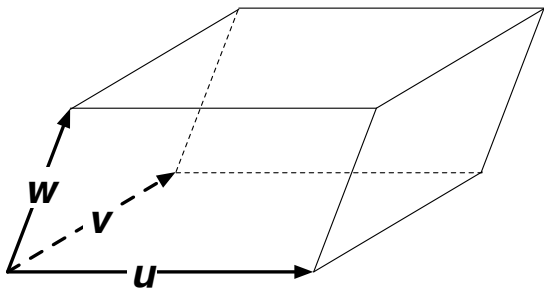
$$S = \frac{1}{2} \sum_{i=0}^{n-1} (x_i y_{i+1} - y_i x_{i+1}) = \frac{1}{2} \sum_{i=0}^{n-1} \{x_i (y_{i+1} - y_{i-1})\}$$

添字は $\text{mod } (n)$ をとる。

体積

原点を基点とする3つのベクトル \mathbf{u} , \mathbf{v} , \mathbf{w} が張る平行6面体の体積

$$V = \mathbf{u} \cdot (\mathbf{v} \times \mathbf{w}) = \mathbf{v} \cdot (\mathbf{w} \times \mathbf{u}) = \mathbf{w} \cdot (\mathbf{u} \times \mathbf{v})$$



同次座標

3次元 \implies 4次元

3次元空間の位置座標

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \implies \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ 1 \end{pmatrix}$$

3次元空間のベクトル

$$\begin{pmatrix} v_x \\ v_y \\ v_z \end{pmatrix} \implies \begin{pmatrix} v_x \\ v_y \\ v_z \\ 0 \end{pmatrix}$$

同次座標

行列

$$\mathbf{M} = \begin{pmatrix} M_{00} & M_{01} & M_{02} & 0 \\ M_{10} & M_{11} & M_{12} & 0 \\ M_{20} & M_{21} & M_{22} & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

平行移動

$$\begin{pmatrix} x' \\ y' \\ z' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x + t_x \\ y + t_y \\ z + t_z \end{pmatrix} \quad (4)$$

これを

$$\begin{pmatrix} x' \\ y' \\ z' \end{pmatrix} = T(t_x, t_y, t_z) \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \quad (5)$$

と書けるような3行3列の行列 T は存在しない。⇒ 4行4列にすればOK.

平行移動

平行移動行列

$$T(t_x, t_y, t_z) = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & t_x \\ 0 & 1 & 0 & t_y \\ 0 & 0 & 1 & t_z \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (6)$$

回転

z 軸の周りの回転

$$R_z(\theta) = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta & 0 & 0 \\ \sin \theta & \cos \theta & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (7)$$

スケール変換

$$S(s_x, s_y, s_z) = \begin{pmatrix} s_x & 0 & 0 & 0 \\ 0 & s_y & 0 & 0 \\ 0 & 0 & s_z & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (8)$$

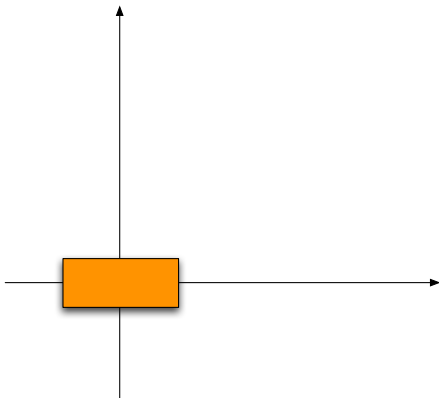
剪断

$$H_{xy}(\beta) = \begin{pmatrix} 1 & \beta & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (9)$$

座標変換の合成

アフィン変換は非可換。一般に

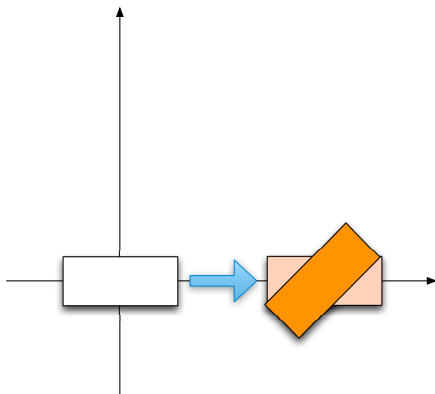
$$M_1M_2 \neq M_2M_1$$



座標変換の合成

アフィン変換は非可換。一般に

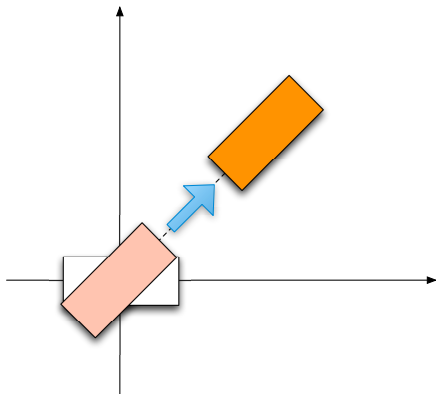
$$RT \neq TR$$



座標変換の合成

アフィン変換は非可換

$$RT \neq TR$$



演習：機能の確認

WebGL 公式ページ

`http://www.khronos.org/webgl/`

デモ集 `http://www.khronos.org/webgl/wiki/Demo_Repository`

Safari でのソースコード表示方法：

- 開発メニュー
- → ページのソースを表示